

## ウィズ・アフター・ポストコロナ時代を生きる 持続可能な伊賀創生とSDGs



12月11日に「ウィズ・アフター・ポストコロナ時代を生きる持続可能な伊賀創生とSDGs COP26(グラスゴー気候合意)」と題して、三重大学 特命副学長の朴恵淑さんにお話を伺いました。



12月11日に「ウィズ・アフター・ポストコロナ時代を生きる持続可能な伊賀創生とSDGs COP26(グラスゴー気候合意)」と題して、三重大学 特命副学長の朴恵淑さんにお話を伺いました。

「SDGs」は、国連が193ヶ国の合意で定めた、地球が持続するための17の目標で、最近当たり前のようになり、そのマークを見たりします。今回は、環境保全の視点からSDGsについて語っていただきました。

皆さんご承知の通り、「SDGs」は、国連が193ヶ国の合意で定めた、地球が持続するための17の目標で、最近当たり前のようになり、そのマークを見たりします。今回は、環境保全の視点からSDGsについて語っていただきました。

**第1回環境セミナー**  
12月11日(土)午後1時30分～  
会場/ハイトピア伊賀 参加者33名

国に対して、皮肉を込めて授与される賞( )をい

また単に不名誉なことではなく、実施の取り組みの結果として二酸化炭素の排出を減らすという地球環境に必要な事項につながっています。私たちは、国の政策をしっかりと見据えるとともに、国ができないなら、県の取り組み、それでもだめなら市の取り組みと、グローバルからローカルに見ていくことが大切ということなのです。

1. 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	2. 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3. 全ての人に健康と福祉を あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	4. 質の高い教育をみんなに 全ての人々の包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う	6. 安全な水とトイレを世界中に 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する	8. 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人の完全かつ生産的な雇用と適切な雇用を促進する
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの拡大を図る	10. 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する
11. 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する	12. つくる責任つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する
13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を調べる	14. 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
15. 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化の防止、並びに土地の劣化の防止、防止及び生物多様性の損失の防止を促進する	16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進、全ての人々の司法へのアクセス提供及びあらゆるレベルにおいて効果的で透明性のある包摂的な制度の構築を促進する
17. パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	

SDGsの17のゴール  
(出典:環境省「平成30年度環境白書」)

## 環境ポスターコンクール 受賞者インタビュー

令和3年度の伊賀市環境ポスターコンクールに多くの小中学生からの応募がありました。環境保全市民会議では、応募作品の中から、「環境保全市民会議賞」として、小中学生を一人ずつ表彰しました。

今回、「環境保全市民会議賞」を受賞した城東中学校の竹森真子さんと上野北小学校の垣内日和さんにインタビューをしました。

### 「あなたの行動が地球を救う」

城東中学校1年生  
竹森真子さん



地球温暖化の問題について観たことがあります。その中で、地球温暖化の原因の一つが二酸化炭素であることがわかりました。自分たちができることは二酸化炭素を減らす効果のある植物を育てる

…なぜこのポスターを描いたのですか。  
一年前の前に、テレビで地球温暖化の問題について観たことがあります。その中で、地球温暖化の原因の一つが二酸化炭素であることがわかりました。自分たちができることは二酸化炭素を減らす効果のある植物を育てる

…環境を守るために自分がしていることは？  
環境全体で言うと、植物を枯らさないように大切に育てています。また、エネルギーを無駄にしないように

…伊賀市の環境についてどう思いますか。  
あまりよいとは思いません。自転車通学していても、道路沿いには、ファーストフード店の紙袋などいろいろなポイ捨てごみがあります。また、橋から川を見るときが捨てられています。上流からごみ捨てると、海まで流れて、いろいろな問題のもとになると思います。

…市民の皆さんに伝えたいことは？  
やっぱりポイ捨てをなくしてほしいです。ごみは、家でわければほとんど資源としてリサイクルできます。ですから、自然を汚さず資源を無駄にしないためにも、ごみは自分の家できっちり分別して処分してほしいです。そのことが、二酸化炭素の排出を抑えて、地球温暖化にブレーキをかけることにつながると思います。

### 「未来のために 何ができる？」

上野北小学校6年生  
垣内日和さん



…なぜこのポスターを描いたのですか。  
前に環境に関する本を読みました。そこで、環境問題に興味を持ちました。そして、環境を守ることに大切

…市民の皆さんに伝えたいことは？  
今の環境をくずさないでほしいです。そしてもっと自然豊かな伊賀市になるように私がポスターに書いたように自分でできることから、積極的にかかわってほしいと思います。

あなたのご参加をお待ちしています。お問い合わせは…

### 伊賀市環境保全市民会議事務局

伊賀市人権生活環境部環境政策課内  
〒518-8501 伊賀市四十九町3184番地 TEL 22-9624 FAX 22-9641  
※本誌バックナンバーが若干残っています。ご希望の方はご来庁くださるか、84円切手を貼った返信用封筒を同封のうえ、事務局までお送り下さい。



## 【クリーンウォーキング】 道の駅あやま周辺

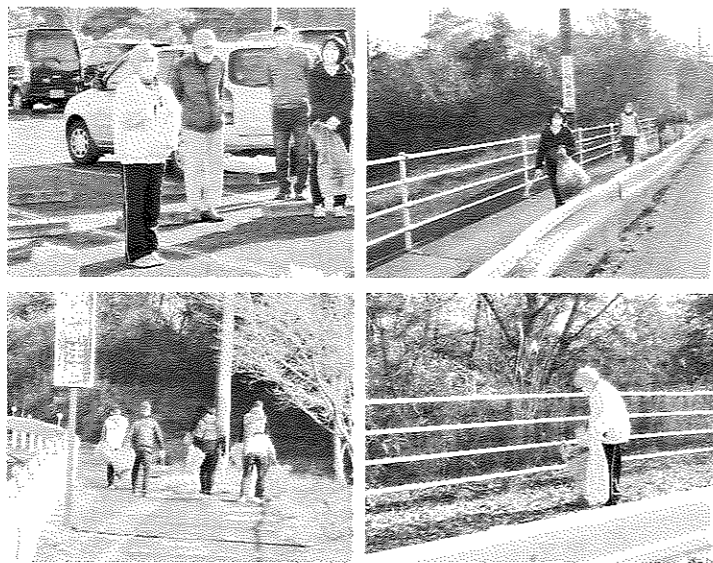
12月4日(土)午前9時～ 参加者38名

環境保全市民会議では、年2回クリーンウォーキングを実施しており、第1回目を12月上旬に実施しています。実施場所については、各支所を巡回しており、今回は道の駅あやま周辺で実施しました。

当日は、少し風が強かったですが、晴れ空の、クリーンウォークをしやすい天候になりました。三重中央開発(株)、上野ロータリークラブ、伊賀青年会議所、プリチーストンサイクル(株)中部物流センター等の団体会員の方々を中心に38名の方にご参加いただきました。森野会長のあいさつの後、道の駅あやまを中心に北側コースと南側コースに分かれて出発しました。交通量が多い道路ですので、歩道沿いを中心に行いました。草むら等をかきわけ

ながら、熱心な作業がされましたが、地域の方々が普段から熱心な取り組みをされているようで、集まったごみは、プラスチックごみや空き缶等、ごみ袋10袋程度、重さ約60キロで、思ったよりも少ない量でした。

山の中でポイ捨てしたごみも、風で川に流れ、最後は海まで流れていきます。また、4月からはプラスチック新法の施行により、レジ袋に加え、使い捨てのプラスチック製のスプーンやストロー等も削減の対象となるようです。この日、一生懸命



に作業しましたが、一度ごみとして捨てられたものを完全に回収するのは、難しいことなのだと感じました。

作業時間は1時間程度でしたが、多くの車が行き交う道路ですので、多くのドライバーの方々に、まちをきれいにする取り組みの重要性をアピールできたのではないかと思います。このクリーンウォークを通じて、多くの人に、すぐにごみになるようなものをなるべく減らすとともに、捨てる際も資源としてリサイクルするなど、適切な方法で処理することを考えてもらう機会になってほしいと思います。

(参加者Fさんの感想)

## プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 (プラスチック新法)とは?

2021年3月9日「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の法律案が閣議決定されました。2022年4月に施行される見通しです

海洋プラスチック汚染が生態系に与える影響が深刻化し、国際的にプラスチック製品の使用抑制、回収・リサイクルの推進が必要となっています。また、プラスチック製品は石油由来が多く、気候変動問題への対応、脱炭素社会の実現のためにも、将来的に素材の転換を進

めることが重要です。さらに、中国等において、プラスチック廃棄物の輸入規制が強化されており、国内でのプラスチック資源循環が必要となっています。

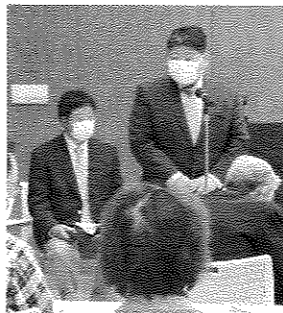
レジ袋については、2020年の容器包装リサイクル法(以下容リ法)の関連省令改正により、有料化が行われました。今回の新法はプラスチック製品全般に、環境配慮設計の促進、使用の合理化、排出・回収・リサイクルの仕組みづくりを目指すものです。

第1回環境セミナー

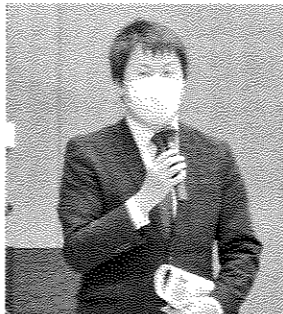
## ウィズ・アフター・ポストコロナ時代を生きる 持続可能な伊賀創生とSDGs



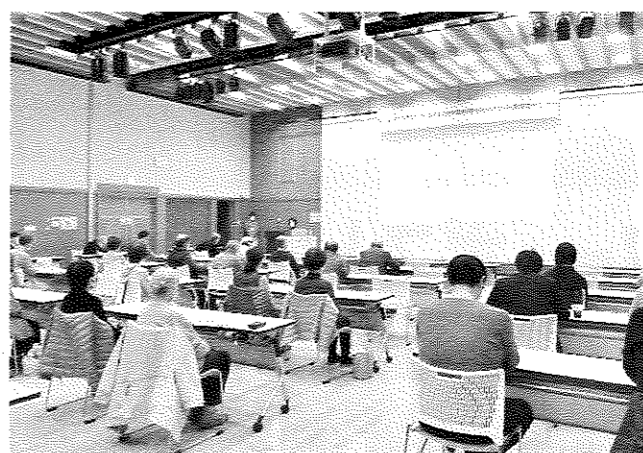
森野会長あいさつ



澤田部長あいさつ



稲森副会長  
閉会のあいさつ



「ページから続く」  
さらに、グローバルからローカルまで、国レベルの政策も個人のささやかな取り組みも大切であることを語っていただきました。先生は、そのことをグローバルと説明していただきました。まさに、伊賀創生という言葉

葉の中に、市として行政も住民の活動もともに歩むことが大切なのだということに気づかされました。

三重県のローカルな課題として、「四日市公害」の例が出されました。さらに、身近な取り組みとして、レジ袋削減のための有料化など具体的な取り組みに結びつけてSDGsにつなげてくれました。

参加者からは、「伊賀モデルとSDGsについて、地域の中で考えていければよいと思った。できるときにできる自分になりたい。」や「難しい話だが、命にかかわる事だと思った。大きいことはできないけれど、自分のできることは何なのか考えていきたい。」など、自分を振り返る時間となったように思います。参加された皆さんありがとうございました。また、今回参加できなかったみなさん、私たちが一緒に、自分たちができるSDGsを考えていきましょう。

## 環境標語

前回の「しぜん」の紙面で、伊賀の自然環境保全に関する標語を募集し、受賞作品が決定しました。今回の受賞作品は以下のとおりです。

【特選】 該当作品無し

【入選】 「ふるさとは ごみ箱でなく 宝箱」 石橋容子さん  
「外来種 日本の生物 生き場なし」 橋本 涼さん  
ご応募ありがとうございました。



この地球上に生息する動植物は、それぞれが支えあって生きていますが、その環境は近年著しく悪化しています。「伊賀市環境保全市民会議」は、環境学習会や環境ツアーを通じて、これらの直面する環境問題や現状を再認識し、また、様々な活動を通して「自然環境を大切にしよう」という市民団体です。

いろいろな事業のうち、ご自分にあつたものにご参加いただければ結構ですので、どうぞお気軽に事務局へお問い合わせ、お申し込みください。

